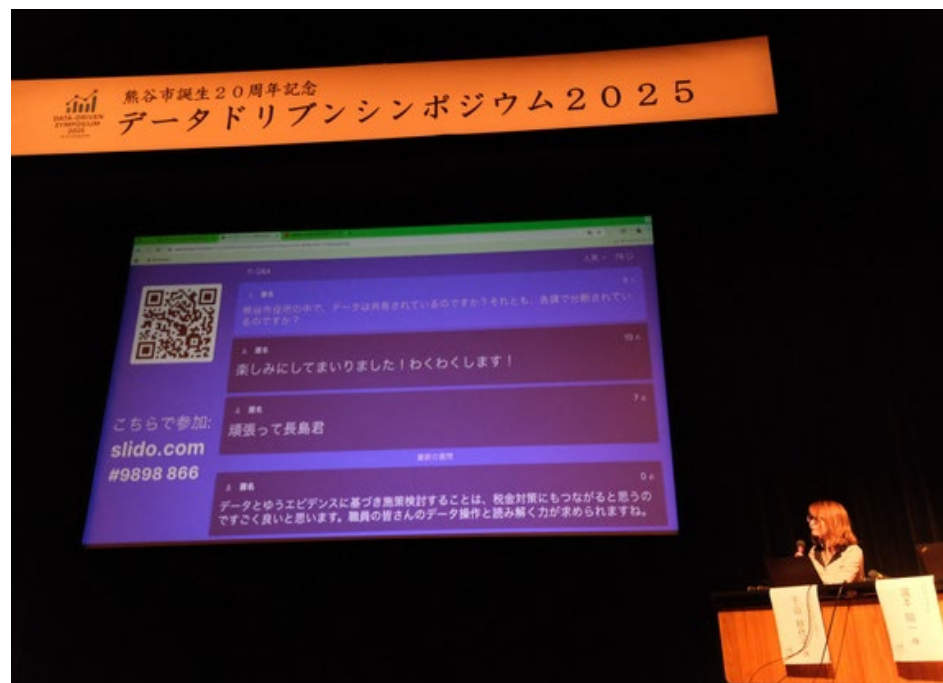


企画段階からアドバイザーを活用 市民参加型シンポジウムを実現

地域情報化アドバイザーを企画段階から活用し、市民参加型シンポジウムを実施。

市民、企業、学生など268人が参加し、庁内外の連携創出や継続的なデータ活用の取組につながった。



関東 | 埼玉県 熊谷市 | 事業名:データドリブンシンポジウム2025

課題

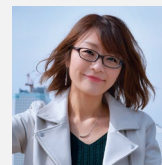
- ・データ活用の取組を庁内外に広げたい
- ・シンポジウムの企画・運営ノウハウが不足

下山 紗代子アドバイザー

EBPM

派遣回数 2回（オンライン1 実地1）

スマートシティ



支援による成果

- ・市民、企業、学生など合計268人が参加
- ・イベント後、庁内から問合せや連携提案が寄せられ、具体的な動きが生まれた
- ・市のデータ活用に対する理解が深まり、公民連携の輪が広がった

ポイント

市民が関心を持ちやすいテーマや参加者との双方向型の進行について助言

事前打合せでシンポジウムの構成や演出に助言し、単発のイベントで終わらせない企画づくりに貢献。

事業・取組の認知に貢献し庁内外の連携創出に寄与

シンポジウムを契機に、データ利活用についての庁内機運の醸成、市民や連携先へ事業の認知が広がり、市が進める「公民連携」の輪を広げることに寄与。

支援後にはデータ可視化ポータル『Kumagaya Data Hub』を公開

データ可視化ポータル『Kumagaya Data Hub』を公開。継続的なデータ活用推進につながった。

課題・背景

- データ活用の取組を庁内全体へ広げたい
- 市民にも取組の成果を知ってほしい
- シンポジウムを行動につながる場にしたい
- 参加者を惹きつける企画づくりのノウハウが不足

支援内容

1回目 事前打合せ(オンライン)

市民が関心を持ちやすいテーマ設定や双方向コミュニケーションを促す企画・進行方法を助言

- 参加者目線でプログラム設計の方向性を整理
- パネルディスカッションのテーマを提案
- 登壇者構成について助言
- 会場との双方向コミュニケーションの手法を整理

自治体での実行内容(約1.5週間)

来場者を意識した進行や演出をプログラムに反映

2回目 シンポジウム登壇(実地)

シンポジウムに登壇し、議論の活性化や参加者への助言を実施

- 豊富な知見を活かしシンポジウムを円滑に進行
- 登壇者から多様な意見を引き出し議論を活性化
- 会場を巻き込んだ双方向型の対話を促進
- データハッカソンで講評・助言を実施



イベントの効果

- 市のデータ活用の取組に対する理解が広がった
- 市役所内部からの問合せや連携の打診が生まれた
- 登壇者との継続的な連携・協力関係を構築できた
- データハッカソン参加者の意欲向上や活動促進に繋がった

地域への広がり

データ活用への関心や公民連携が拡大

- 「熊谷スマートシティ」がデータ利活用を重視していることへの認知が広がった
- 公民連携の輪が広がり新たな連携のきっかけを創出
- 登壇者や関係者との継続的な人的ネットワークを構築

その後の事業状況

令和8年3月にデータ可視化ポータル『Kumagaya Data Hub』を公開

<https://www.city.kumagaya.lg.jp/smartcity/data/kumagayadatahub.html>

行政内部で進めていた取組を市民向けサービスへ展開



LINEポータルアプリ「くまぶら」登録者ダッシュボード

データ利活用について相談できる人的ネットワークを構築

アドバイザーをはじめ、今後もデータ利活用について相談できる外部人材との関係を構築

下山アドバイザー コメント

元々熊谷市さんが進められてきたお取り組みが素晴らしかったので、それを市民の方々にしっかり伝えて、まだまだ行けるぞ！という

機運を高める場づくりを意識しました。継続的な取り組みにつながったのはひとえに担当職員さんのご尽力によるものだと思います。

熊谷市担当者 コメント

初めてのデータドリブンシンポジウムの企画にあたり、アドバイザーから企画段階から当日運営まで幅広い助言をいただきました。

特に市民目線でのテーマ設定や進行方法に関する助言は、今後の取組にも活かせる学びとなりました。